

令和3年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況		教育委員会における自己評価				
具体的活動		評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的 施策	(1)教育長としての役割等について	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市長部局で作成する教育大綱について、地域の実情に合った計画となるよう意見を述べる。 ・本市教育推進のため、教育政策等を立案し実践化する。 ・市長に対し、教育行政の課題等について情報提供を行う。 ・教育委員へ教育行政施策の積極的提言と周知の徹底を行う。 ・大野原小中学校の「通学・留学」制度については、長崎県の市町に広報すると共に、関係部局と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、本市の実情に合った教育計画を推進中である。 ・大野原小中学校の「通学・留学」制度のPRを行い、今年度から移住しての留学生を1名受け入れている。 ・市長に対して、「学力の現状と教育課題」について随時情報を提供している。 ・教育委員へ教育情報の提供を積極的に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉野市教育大綱の見直しが必要かどうか総合教育会議で検討する必要がある。 ・大野原小中学校の留学については、移住・定住についても支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議の実践化に向け、市長部局との連携に取り組む。 ・大野原小中学校の留学については、関係部局との調整を図る。
	(2)教育委員としての役割について	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大綱作成について、教育委員としての立場で意見を述べる。 ・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自己の考え方や意見・思いを述べると共に、教育行政全般についてチェックを行う。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会を実施して、教育委員一人一人の考えを述べあい相互の理解を深め、地域の抱える課題の把握に努め、民意を反映した教育行政の一翼を担う。 ・研修会等を通じ、教育課題について把握し、委員としての専門性を習熟し、資質と能力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回作成された「嬉野市教育大綱」に従って、教育委員としての立場で活動している。 ・定例教育委員会議等で、提案される施策について、教育委員個人の考えや思いを述べる事が出来ている。 ・社会教育委員との懇談会は感染症予防のため開催できなかった。 ・新型コロナウイルスの影響により教育委員研修会等は中止されるものが多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議の中で、教育委員として積極的に意見を述べる事が課題である。 ・総会や研修会等が中止されたため、教育課題の把握や専門的知識の習得が難しかった。 ・社会教育委員との定例的な意見交換の場を設定して、双方向からの情報の共有が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議の実践化に向け、市長部局との連携に取り組む。 ・リモートでの研修会等が開催されれば参加していきたい。
	(3)定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	C	<ul style="list-style-type: none"> ・定例教育委員会への傍聴を、コロナ感染の状況を注視しながら次のように拡大し、開催日をホームページで広報する。 <ol style="list-style-type: none"> ①市役所職員と新規採用職員への傍聴依頼 ②教職員(主幹・指導教諭)への傍聴依頼 ③社会教育委員へ傍聴依頼 ④PTA役員へ傍聴依頼 ・教育委員会終了後に傍聴者から感想及び教育課題についての意見を求め、必要により意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の会議傍聴については、感染症予防のため評価委員以外は全て非公開とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の会議は、評価委員以外は傍聴なしで行ったが、会議録のホームページ掲載は遅れている。できるだけ早く公開できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議録作成が迅速にできるように作成ツールなどを検討し、迅速に公開できるように掲載内容の簡略化を検討していきたい。
	(4)教育委員への迅速な教育情報の提供や会議の招集	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員に学校教育・社会教育並びに教育総務に関する情報を年間を通して迅速に提供する。 ・教育委員会会議を定例的に開催し、市役所以外の公共施設等で開催する。 ・オンライン(ICT)の活用を検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例教育委員会時に予算や補正予算の情報、議会での一般質問事項の説明を行った。 また、社会教育分野においても事業計画を策定し、その都度情報の提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設等の改修状況など、国・県の動向を含めた説明を行うことが課題である。 ・オンライン(ICT)の活用が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急案件については、持ち回りや電話等で事前承認を得るなど情報提供の迅速化に努めた。 ・リモートでの会議開催を市の情報部局に支援を得ながら検討したい。
	(5)教育委員会と学校の協働意識高揚と課題の共有化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」のより一層の充実を図るため、教育委員も、コロナ感染防止に留意しながらトーク会のグループ(班)に参加し意見を述べる。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションへの参加や、成果発表会に出席し、学校の自立的経営について意見を述べる。 ・学校訪問時の「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で、市長部局の職員等の出席を求め、教育現場の声やトーク会出席者の意見を市の行政に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度出来なかった教育委員の学校訪問は、今年度は感染防止対策を講じながら実施することが出来た。 ・校長先生の知恵袋事業のプレゼンテーションに参加し、校長の特色ある学校経営について理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トーク会での直接懇談・協議は行うことができなかった。教育委員にいろいろな方法で学校現場の情報を伝える体制作りが課題である。 ・教育委員会でも、校長先生の知恵袋事業は特色ある事業であり、限られた予算の中での特色のある学校経営の充実が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートでの会議開催を市の情報部局に支援を得ながら検討したい。 ・議題によっては他の部署から協力を得られるように調整を図る。 ・今後も継続しながら更なる予算の獲得に努める。

<p>評価委員からの指摘事項・意見</p> <p>(1)教育長のリーダーシップの下、先を見据え、嬉野市の子どもたちのために、よく取り組まれていると評価する。自己評価「B」・「C」は低すぎるのではないと思う。</p> <p>(2)定例教育委員会会議の傍聴については、「リモート傍聴」はできないのか。これができるれば「公開性の拡大と充実」の「C」は、改善されると思う。</p> <p>(3)「嬉野市教育大綱」の見直しなども含め、総合教育会議開催が喫緊の課題であろう。</p>	<p>評価結果(段階)</p> <p>B</p>	<p>指摘を受けての改善点</p> <p>(2)リモート傍聴については、コロナ禍であっても市職員、教職員、社会教育委員等は庁舎内の別室での傍聴は対応可能と考えられるが、一般市民の自宅での傍聴は、市長部局の規程との関連もあるため、調査・研究していきたい。</p> <p>(3)総合教育会議については、市長部局が開催計画をするところであるので、その実施についてお願いしていく。本市教育委員会においては、ここ数年来第2次嬉野市総合計画に基づいて、「嬉野市の教育」の発行を毎年行っているが、市長と教育長・教育委員との意見交換の場を設定して、意見交換をして参りたい。</p>	<p>評価4段階</p> <p>A 達成(80%以上)</p> <p>B ほぼ達成(51~79%)</p> <p>C やや不十分(50~21%)</p> <p>D 不十分(20%以下)</p>
---	--------------------------	--	--